

MONTHLY REPORT

JANUARY
REPORT

NAME:
Yuriho Seike

DATE:
February 1, 2022

アメリカで迎えた新年

アメリカの新年の迎え方は、日本と比べるとかなり質素に感じました。新年のお祝いよりもクリスマスの方が盛り上がっていて、日本で言ういわゆる『お正月気分』を体感することはなかったです。初めての宿題が無い冬休みに困惑して、自分で何か勉強しようと机に向かうと「休みの日までに勉強しないでいいんだよ 何してるの?!あなたは勉強家ね…!」と言われる始末。日本では考えられないような『お正月』を体験できてよかったです。学校が始まってからは忙しくて、あの冬休みの退屈さが嘘のようですが、私はやっぱりこれくらい忙しくないと感じた心地がしないな…なんて思います(笑)忙しい日々にも感謝です!

日本文化紹介ボランティア

先日、ホストファミリーの通う幼稚園で日本文化紹介を行いました。写真を見せながら、日本の四季や日本食の話をしたり、たこ焼きを作って振る舞ったりしました。35歳の子供達を対象だったので、ゆっくり聞き取りやすいように英語を話すように意識しました。子供達も興味津々で、沢山質問をしてくれて嬉しかったです。このような機会を与えてもらえることに感謝しています。これからもチャンスを逃さずに、積極的に日本文化を発信していきたいです。
追記: Amazonで買ったたこ焼き器が大活躍しています!
買って正解でした♡



今月のハイライト

- ・ 演劇の州大会出場
- ・ コロナに感染
- ・ たこ焼きパーティ (Culture Club)
- ・ アフリカからの留学生と仲良くなれた
- ・ Student of month に選ばれた
- ・ English&USHistoryで8割取れている
- ・ ピアノクラスで作曲をして褒められた
- ・ レターマンジャケットを手に入れた!

お金に対する考え方の変化

アメリカに来てから、自分が1か月にどれだけのお金を使っているかを毎月記録する様になりました。日本では特に自分の生活費やお小遣いについて考えることもなく、ただ『欲しい時に欲しい物を手に入れる生活』だったので、ここに来て自分がどれだけ両親に負担をかけていたのかを初めて知りました。何も考えずに欲しい物をひたすらカゴに入れていた自分が今では情けなく感じます。もちろん時には自分への褒美をあげる事も大切ですが、一度踏みとどまって「本当に今これが必要なのかな?」と立ち止まって見る事が大切なのだと思います。先日友達とモールに遊びに行ったのですが、その日は友達への誕生日プレゼント以外何も買わずに帰ってきました。周りの友達が高い靴を何の躊躇いもなく買うのを見て「私も買おうかな」とは一切考えなかったので、驚きです!日本では自分の物を何か買わないと気が済まなかった私が、まさかここに来て節約家になるなんて思ってもいませんでした。思い返してみると、アメリカに来てから制服や学校で買うTシャツ、そしてイベント用のドレス以外は1回も服を買ったことがありません。こんな風に書くとまるで留学を楽しんでいないかのように思われるかもしれませんが、私の留学の目的は観光でもショッピングでもなく異文化学習と自身の成長なので、この生活には本当に満足しています。ある物を上手く活かして節約して、本当に欲しい物ややりたい事にこそお金を使うべきなんだと気がつきました。そしてアメリカでは高校生も自分の欲しい物を買うため、そして時には将来の大学費用や生活費を稼ぐために働いています。そんな友達を見ていると、私も早く自分で稼いで自分で生きていけるようになりたいな…と思います。ベビーシッターで初めて給料を買った時、働いてお金を稼ぐ事の楽しさと喜びを知りました。まだ私は働く事は出来ないけれど、私もこの留学でお金の使い方を見直すことができよかったです。私達を養うために一生懸命働いてくれる両親に本当に感謝しているし、2人を心から尊敬しています。私もいつか私の両親のように、子供のやりたい事をさせてあげられるような立派な親になりたいです。その為にも今は勉強はもちろん、人間としても成長できるように努力していきたいです。

留学生活で初めて経験したレイシズム

1月中旬頃、3泊4日で演劇の州大会に出場しました。会場はミシシッピ州の南部で、私が今まで訪れたことがなかった場所だったので、とてもワクワクしていました。大会は雰囲気も良く、すごく楽しかったのですが、その4日間で最も記憶に残った経験は『レイシズムの対象になった事』でした。誤解を招かないように先に記しておきますが、レイシズムと言っても暴力や暴言を直接受けたわけではありません。書くかどうか迷いましたが、残しておきたいのでレポートにします。)

私達の公演が終わった後の打ち上げに向かうバスで、クラスメイトが突然深刻な表情で“Please do not misunderstand. I just wanna make sure that you know about it or not…but you know about racism, right?”と尋ねてきました。その日に見た舞台(アメリカの人種差別をテーマにした脚本)の話をしているのかと思い、私は笑顔で舞台の感想を述べたのですが、友達は申し訳なさそうに“No…I mean, in the real. I’ m talking about YOU, Yuli.”と、私達の公演中に何があったのかを説明してくれました。公演中にある特定の学校の生徒数名が私達のショーの台詞を馬鹿にしたように真似たり、笑ったりしていたと親しい他校の生徒が教えてくれたそうです。それだけ聞くと、ただのマナーのなっていない高校だな…と思うだけで済んだのですが、それは他の学校の公演中には起こっておらず、私達の高校の公演中だけだったそうです。原因は、私の英語のアクセントでした。そのことを聞いた瞬間、言葉に出来ない感情が込み上げてきて、涙が止まらなくなりました。怒りでも悲しみでもなく、ただ私1人のせいで舞台を台無しにしてしまったという責任感と申し訳なさでいっぱいでした。演者の役割はストーリーテラー。たった一つでも大切な台詞が届かなかったのなら、それは舞台として成り立ちません。日本でもアメリカでも、その事を常に心に留めて稽古をしてきました。それなのに、自分のアクセントのせいで公演中のトラブルを巻き起こしてしまったことがただ申し訳なくて、何度も“I’ m sorry…”と繰り返していました。しかし、舞台観客に私の台詞は確実に届いていたようで、理解できなかった訳ではなく、ただ私が『アジア人、日本人であること』が原因だったと友達が教えてくれました。ミシシッピ州北部は歴史的背景が他の地域よりも極めて深い“Deep south”です。人種差別も稀ではなく、私もミシシッピ州への留学が決まった時から覚悟はしていました。むしろ同じミシシッピ州で今まで何の差別も受けずに生きてこられたのが不思議なくらいです。自分がどれだけ恵まれていたのか思い知らされました。友達は私が傷つくのではないかと思います。私に伝えるべきかずっと考えていてくれたそうです。私がショックで泣き出した時も、手を取って暖かい言葉をかけてくれました。友達が“They don’ t know anything about you. They don’ t know how wonderful person you are. They don’ t know how long you’ ve been here. They don’ t know how much effort you made. THEY DONT ANYTHING ABOUT YOU. That’ s why I’ m upset. Once they know you, they can’ t say anything to you. Yuli, you did amazing job. This is not your fault.”と言ってくれた時、本当に本当に嬉しかったです。たとえ生まれ育った国が違って、こんな風に私のことを想ってくれる人がいる。この辛い経験は、自分の成長に必要なものだったのだと思います。今ではあの時私のことを笑っていた人達にも感謝しています。自分が実際に当事者になったことで感じたことや分かったことも沢山ありました。辛い経験や厳しい言葉は自分を成長させてくれる先生だと思っています。何事も、捉え方次第で自分の糧になるか枷になるかが決まると信じているので、これを自分の糧にできるようにこれからの人生に生かしていきます。

そして私も、私の事を笑っていた人達のことを知りません。もしかしら、彼らもただアジアの文化や人の事を知らないだけかもしれません。知らない人や物事を思い込みで否定することほど悲しいことはありません。お互いを知れば、相手に対する考え方も変わります。私は『知ること』と『理解すること』は違うと思っています。しかし、たとえお互いのことを理解できなくても、相手の考えを受け入れられなくても、相手の考えや生き方を知る事でその考えから学べる事がたくさんあります。相互理解と共存はもちろん理想ですが、たとえ自分が相手を受け入れられなくても「そんな考え方もあるのか。新しい価値観の勉強になるな…！相手の考えも尊重しよう！」と思えるのなら、それは相手も自分も否定しない平和な考え方だと思います。私もよく知らないのに思い込みや決めつけで人や物事をジャッジしないようにしていきたいです。いつか見た目や話す言葉、文化などでお互いを判断するのではなく、同じ人として誰もがお互いを思いあえる世の中になるといいな…と願っています。私の力は小さいけれど、まずは私の周りからそのような暖かい雰囲気を生み出していきたいです。私に本当の事を教えてくれて、優しく受け止めてくれた友達に本当に感謝しています。何の目的もなくただひたすらに英語を勉強していたけれど、それもこの素晴らしい人達に出会うためだったのかな…と思います。まだまだ自分の英語力の低さには悩まされていますが、こうやって英語でコミュニケーションが出来なかったらこんな素敵な友達に出会えていなかったと思うと、本当に勉強してきて良かったです！英語が話せる事で自分の可能性も世界も人間関係も一気に広がりました！これからもっと学びを深めて、色々な人に出会って、もっと色々な事を経験するのを楽しみます！